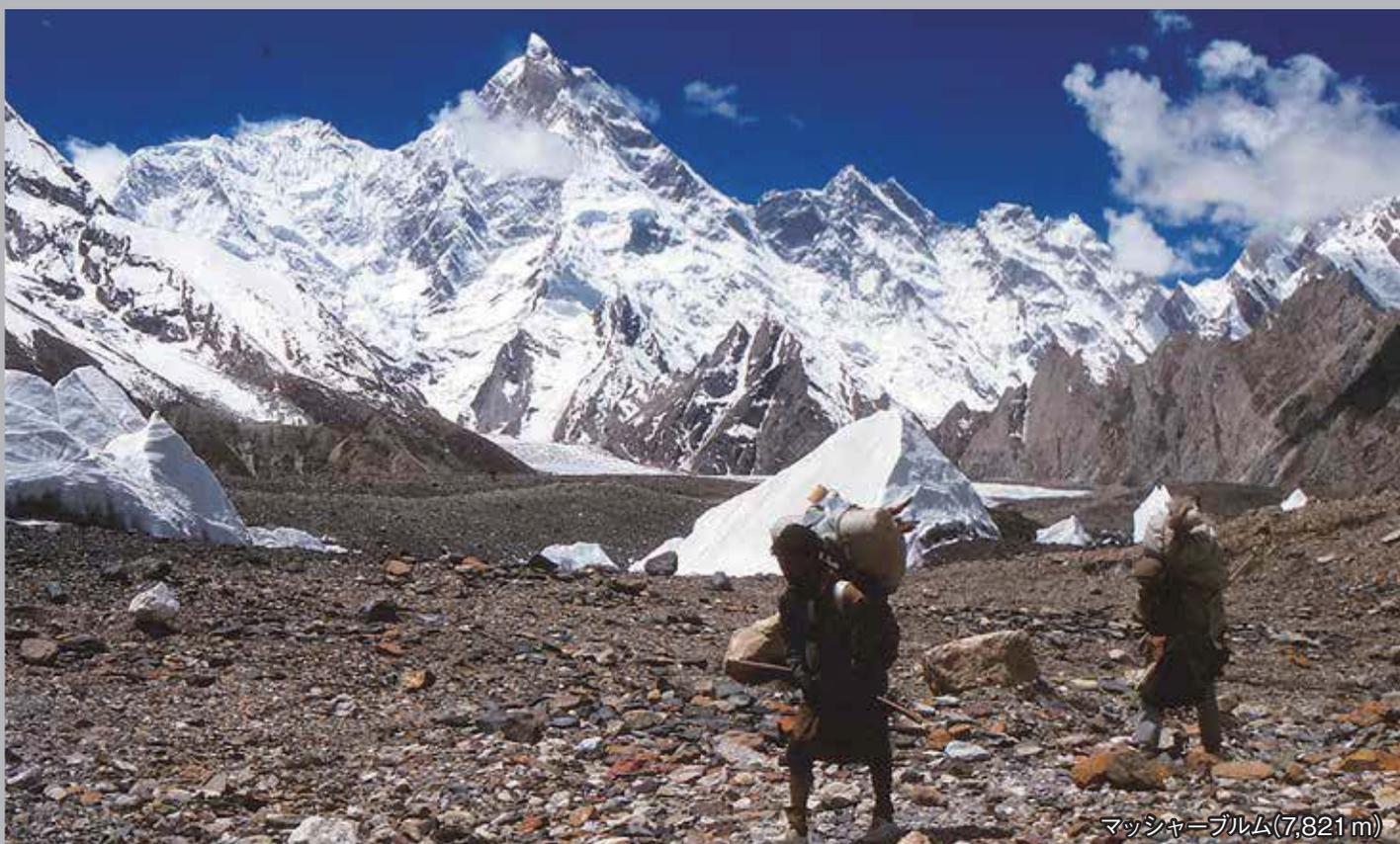


登山月報



マッシュャーブルム(7,821 m)



8月11日 みんなで山を考えよう!
祝「山の日」
全国「山の日」協議会
山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する

会長に就任して 会長 丸 誠一郎	2
いよいよ開幕！ 東京2020オリンピック	3
第150回 Mountain World	5
新連載 Enjoy Climbing	6
令和3（2021）年度定時総会報告	8
（公社）日本山岳・スポーツクライミング協会 役員名簿	9
令和2（2020）年度事業報告	9
令和2年度決算概要	11
令和2年度収支決算	11
令和2年度収支決算書	12
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば、編集後記	13

会長に就任して

会長 丸 誠一郎

去る6月20日、「令和3年度定時総会」において、第12代JMSCA会長を拜命いたしました、丸 誠一郎です。

私が申すまでもなく、日本の登山界を統括し、安全登山を指導・普及していく団体として、また、スポーツ競技団体としてのJMSCAに対する、国内外の期待は一層高まり、またその責務と、私たちを取り巻く環境は、さらに厳しさを増しております。

世界中の社会変動と隔差拡大の流れもあり、国内競技団体においても、ダイバシティへの変革は、急加速度的に進んでいます。昨年11月時点で、国内にある90の競技団体役員(理事・監事)の女性割合は15.5%でした。6月25日に役員改選のあったJOCは女性理事が13人となり一挙に43%といたしました。JMSCAのSC部門の上部団体であるIFSCにおいても、役員12名に対し女性割合は33%となっています。2021年度現在、11%に甘んじているJMSCAも、国内外からの女性登用の要請には、真摯に受け止めていかねばなりません。

JMSCAは、スポーツの中でも最も自然に接し、守り、育て、登山者との共存を目指してまいりました。しかし、政財界の内外の潮流はESG(Environment: 環境、Social: 社会、Governance: 企業統治)の本流に便乗しようという流行りに乗っています。しかし、真の環境問題に取り組み、脱炭素においても先んじて実践してきた我々の自然を愛する魂の真価が、社会の評価で試されようとしています。こうした使命感を行動に換える原動力として、新たに高野孝子氏を副会長に迎えました。

さらに、JMSCAが最も強化していくべき点は、先ず「コミュニケーション」です。JMSCAには、現在5件のSNSから情報が発信されています。そのうち最も読まれているのがjapan_national_climbing_teamというInstagramですが、フォロワーは僅か14343人(2021年6月現在)という厳しい状況です。メディアの殆どは、SNSの発信からJMSCAのブランドを導き、メディアでの露出が協賛会社様の意欲を掻き立てるわけです。協賛企業様のご協力なくして、五輪競技の継続繁栄はあり得ません。令和2年度の財務報告は、



まさに^{ぎょうこう}僥倖な結果であり、我々理事が汗をかかずして得たものです。JMSCAの2番目の強化ポイントである「ファイナンシャル・イシュー」に関しては、タイムリーなアイデアと機動力を追求してまいります。

私を含めた新しい25名の理事、2名の監事は、これより出来る限り高く、大きい理想を掲げ、つねに手と足を動かし、明確なプランをもって職務を実行してまいります。全国47都道府県の各岳連の皆様、各SC競技関係者の方々から、十の要求を戴いたなら、十一を返す。その余分の一のプラスが無ければ、JMSCAの進歩はないという、覚悟をもって、新年度は歩み始めております。

◇ 丸 誠一郎(まる せいいちろう)

1954年10月13日、東京生まれ。66歳

1978年3月、慶大法学部法律学科を卒業後、大和証券(株)に入社。87年3月から92年8月までアメリカ大和証券債券本部、キャピタルマーケット本部に出向。94年4月から04年7月まではクレディスイス証券(旧CSFB証券)で資本市場部長を務めた後、04年12月にニューベリービジネスコンサルティング(株)を創業。

山岳関係では、慶大山岳部で活躍した後、OB会の登高会々員として後進の指導に当たり、慶応高校山岳部や慶大体育会医学部山岳部のヘッドコーチを歴任。80年にはインド・ヒマラヤのケダルドーム(6150m)に登頂。趣味では、御殿山トライアスロンクラブに所属するトライアスリートとして現在も各種大会に出場している。2019年6月、JMSCA副会長に就任。

いよいよ開幕!

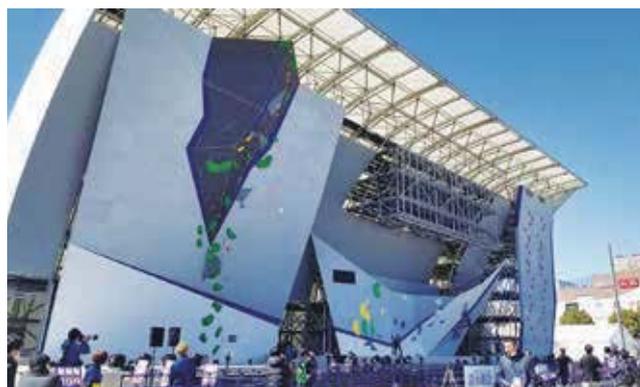
東京2020オリンピック

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により1年延期となった東京2020オリンピックが、いよいよ7月23日に開幕する。

ついにスポーツライミングが初めてオリンピック競技として世界にお披露目します。

東京2020オリンピック競技概要

競技日程	8月3日(火) 17:00～22:40 男子予選 8月4日(水) 17:00～22:40 女子予選 8月5日(木) 17:30～22:20 男子決勝 8月6日(金) 17:30～22:20 女子決勝
競技会場	青海アーバンスポーツパーク (東京都江東区)
種目	コンバインド(スピード、ボルダリング、リードの3種目複合)
出場選手	男女各20名(各国男女最大2名ずつ)



青海アーバンスポーツパークのスポーツライミング競技会場



開会式が待たれる新国立競技場

【安井博志強化コーチのコメント】

私は約20年間クライミングの指導者として競技を中心に携わり、多くの選手達を見てきました。特にここ数年の国内争いは激化し選手達は互いに切磋琢磨することで逞しく成長してくれました。昨年は国際大会へ全く出場できませんでしたが、この国内競争力によって競技力は保てたと思います。

東京オリンピックに参加する檜崎智亜・原田海・野口啓代・野中生萌の4選手は実績十分な選手達です。今大会は私たちにとって初めてのオリンピックである

だけでなく、自国開催という素晴らしい機会です。このような素晴らしい場に立てることを選手・スタッフ共に感謝し、クライミングに関わるすべての人達が誇らしく思える大会にすることが私の役目だと思っています。未踏峰のオリンピックの頂へ挑む4選手へ最大のエールを!

競技方式

東京2020オリンピックのスポーツライミング競技は、スピード、ボルダリング、リードの順番で競技を行い、各順位を掛け算した値の少ない順で総合順位を決定する。順位が並んだ場合は、その選手間で順位が上の種目が多い選手が上位に。予選20名の内、上位8名が決勝に進出。

	予 選	決 勝
出場人数	20名	8名
スピード	1人2回の競技を行い、速い方のタイムを予選記録として、タイムレース方式で行う。1度でもフォールスタート(フライング)すると、その時点で失格、最下位となる。	予選と異なり、対人戦によるトーナメント方式で行う。初戦の勝者4名と敗者4名でトーナメントを組み、1位～8位までを決める。
ボルダリング	4課題をベルトコンベア方式で登り、①完登数②ゾーン獲得数③完登に要した合計アテンプト数④ゾーン獲得に要した合計アテンプト数の順番で順位を決定する。1課題の制限時間は5分間	予選と異なり、競技進行は1つの課題を全員が競技を終えた時点で次の課題に移るW杯決勝方式で行い、課題数は3つ。1課題の制限時間は4分間。順位決定方法は、予選と同じ。
リード	ロープを支点にかけて安全を確保しながらTOPホールドを目指す。制限時間は6分間。トライは1回のみ。同高度で並んだ場合は、競技開始から落下まで(完登の場合は、完登まで)の時間が短い選手が上位に。	制限時間や順位決定方式は、予選と同じ。ルートの手数は、予選、決勝とも40手前後が多い。



梶崎智亜選手

写真：JMSCA/AFLO

原田海選手

写真：JMSCA/AFLO

野口啓代選手

写真：JMSCA/AFLO

野中生萌選手

写真：JMSCA/AFLO

【梶崎智亜選手コメント】

いつも応援してくださりありがとうございます。

憧れていた大舞台でプレイできることを、ひとりのクライマーとして本当に光栄に思っています。

ファンの皆様に良い報告ができるように、歴代最強のクライマーという夢に向かって頂上目指して頑張ることができます。

熱い応援をよろしくお願いいたします。

【原田海選手コメント】

「コロナ禍で自分が思い描くような練習が出来ず、苦しい時期もありました。たくさんの方に支えていただいたおかげで、今はクライミングを楽しんでいます！

オリンピックという大きな舞台を楽しむとともに、小柄な僕が体格差のある選手に立ち向かっていく姿をお見せできるよう、精一杯頑張ります！応援、よろしくをお願いします。」

【野口啓代選手コメント】

登山月報をご覧の皆さん、いつも応援ありがとうございます

ございます。

スポーツクライミング日本代表の野口啓代です。

コロナウイルスの猛威は留まるところを知らず、感染力の強い変異種等の報道が続き、医療従事者の方々の貴重な働きで私たちの生活が送れていることに感謝をしています。このような状況下でも来月の東京オリンピックが開催されることを信じ、私自身一日一日を積み重ねています。競技を始めたのはちょうど20年前。まさかクライミングが自国開催のオリンピックで採用されるなどと思っていませんでした。ただただクライミングが好きで、もっと上手になりたい、強くなりたいと思っていたら長年続けてきたご褒美のように東京五輪の切符を手にすることが出来ました。私にとって最初で最後のオリンピック。ずっと私の競技生活を支えてくれた家族に集大成の姿を目に焼きつけてもらいたいと思っていますし、皆さんからの声援を力に思いっきり自分らしいクライミングをしたいと思っています。

(選手コメントは、寄稿して頂いた選手のみ掲載しました。)

男子出場選手			
	氏名	年齢	出身国
1	梶崎智亜	25	日本
2	ヤコブ・シューベルト	30	オーストリア
3	リシャト・ハイブリン	25	カザフスタン
4	原田海	22	日本
5	ミケル・マウエム	31	フランス
6	アレクサンダー・メゴス	27	ドイツ
7	ルドヴィコ・フォッサリ	24	イタリア
8	ショーン・マッコール	33	カナダ
9	ミシェル・ビッコルルアツ	25	イタリア
10	チョン・ジョンウォン	25	韓国
11	アダム・オンドラ	28	チェコ
12	バッサ・マエム	36	フランス
13	ヤン・ホイヤー	29	ドイツ
14	パン・ユーフエイ	21	中国
15	アルベルト・ヒネス・ロベス	18	スペイン
16	ナサニエル・コールマン	24	アメリカ
17	アレクセイ・ルプツォフ	32	ロシア
18	コリン・ダフィー	17	アメリカ
19	トム・オーホールラン	29	オーストラリア
20	クリストファー・コッサー	20	南アフリカ

女子出場選手			
	氏名	年齢	出身国
1	ヤンヤ・ガンブレット	22	スロベニア
2	野口啓代	32	日本
3	ショウナ・コクシー	28	イギリス
4	アレクサンドラ・ミロスラフ	27	ポーランド
5	野中生萌	24	日本
6	ペトラ・クリングラー	29	スイス
7	ブルック・ラバトゥ	20	アメリカ
8	ジェシカ・ビルツ	24	オーストリア
9	アヌーク・ジョベール	27	フランス
10	ソ・チェヒョン	17	韓国
11	ジュリア・シャヌルディ	25	フランス
12	ミア・克蘭ブル	21	スロベニア
13	ユリア・カブリナ	28	ロシア
14	キーラ・コンディー	25	アメリカ
15	ラウラ・ロゴラ	20	イタリア
16	ソン・イリン	20	中国
17	アランナ・イップ	27	カナダ
18	オセアニア・マッケンジー	19	オーストラリア
19	ヴィクトリア・メシコワ	20	ロシア
20	エリン・ステルケンブルク	18	南アフリカ

※選手の掲載順は、IFSC公式サイトに基づく。
 ※年齢は、東京オリンピックの男女各競技初日時点

冬のK2に消えた父を求めて

池田常道

K2 (8611 m) の冬季初登頂が1月16日、ネパール隊のシェルパら10人によって果たされたことは2月号に書いた。セブンサミット・トレックス(チャン・ダワ・シェルパ隊長)、イマジン・ネパール(ミンマ・ギャルジェ隊長)、それにエリート・エクスペディション(ニルマル・プルジャ隊長)と3つの隊が合同して南東稜(アブルツツィ稜)にルート工作を施し、相次いで頂上を陥れたのだった。

総勢50名を超える大所帯の費用を賄うために、イマジン・ネパール以外は少なからぬ外国人クライアントを募集し、ルート工作隊が登頂を果たした後は各自の裁量で登らせる方式を採用していた。公募隊とは言いながら、頂上まで付き添ってガイドするのではなく、固定ロープが張られて各キャンプが設営された後は自己責任で頂上を狙わせる、いわゆる「インディペンデント」扱いが多かった。シェルパたちは、冬のカラコルムにしては異例に早い1月中旬に登頂行動に入ったものの、大多数のクライアントはまだ高所順応中だったので、前線のシェルパチームに同行して登頂を試みようとするメンバーはいなかった。頂上攻撃の日取りは公になっていなかったという説もある。

スペインのセルヒ・ミンゴテ(49)はネパール勢の登頂当日、C2までの順応を終えてBCに下る途中でC1下で転落死してしまった。

アイスランドのジョン・スノーリ・シグルジョンソン(47)は前年冬、ミンマ・ギャルジェの募集した公募隊でK2に向かったが、隊長との折り合いを悪くして、今回はパキスタン随一の高所クライマー、ムハンマド・アリ・サドバラ(46)とその息子サジード(22)を独自に雇って参加していた。無酸素登頂を狙うチリのフアン・パブロ・モール(33)も現地でのこの3人に加わって、一行は4人となった。しかし、彼らはネパール勢から予定を知らされていなかったため、16日の攻撃には間に合わなかった。ネパール人たちが頂上に立ってから再び悪天候の周期に入ったため、次の攻撃機会は2月初めまで訪れず、彼らは他のクライアント同様、BCで無為に待機するほかなかった。

ジョン・スノーリら4人は、2月5日夜11時から12

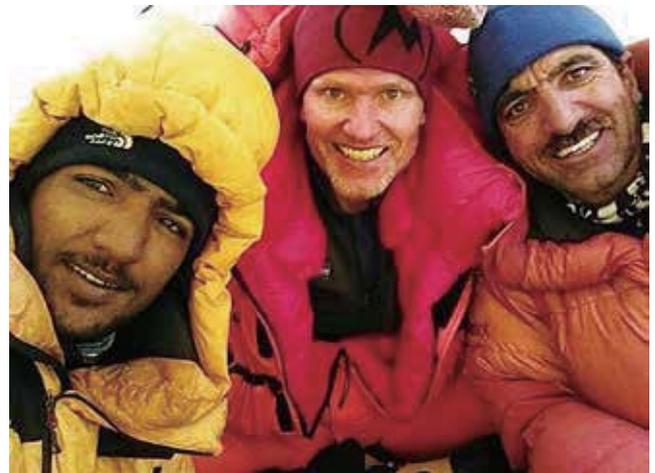
時の間にC3を出て頂上に向かった。サジードは、ボトルネックにさしかかったところで酸素器具の不具合により引き返した。他の3人はそのまま登高を続けたが、キャンプで待つサジードの元に帰ってくることはなかった。ヘリによる捜索も、彼らの痕跡を見つけることはできなかった。

ポーランドのカメラマン、オズヴァルト・ロドリゴ・ペレイラは昨年12月、同国女性マグダレナ・ゴルシュコフスカのK2挑戦をフィルムに収めるためBCを訪れ、一連の事件を見聞きた。帰国したゴルシュコフスカは、頂上から帰ったシェルパのひとりから「(他の人々が登れないように)固定ロープを切断した」と聞いて、それを公表してしまった。

一時炎上したこの論議には、ミンマ・ギャルジェが反論し、ゴルシュコフスカもシェルパの冗談だったと弁解した。炎上は収まったかに見えるが、サジードは父の最期を確かめるため、もう一度K2を訪れる意向を示している。ペレイラもK2BCを訪れ、8月初めまで現地に滞在して調査に当たるといふ。

*

冬のK2はネパール勢に席卷されたが、パキスタンは、夏を前にコロナ禍にゆらぐネパールからの入国を禁止。このためネパールのK2公募隊は今季の計画を取りやめた。そこに名乗りを上げたのはミルザ・アリ率いるカラコルム・エクスペディションで、11人のクライアントに地元高所ポーター22人を擁してK2に挑む。このほかスペインのジョルディ・トサスとオーストリアのシュテファン・ケックがルート工作隊を率いる。クライアントのなかには、オーストラリアのリック・アレンもいて無酸素登頂を目指す。



サジード・アリ・サドバラ(左)は、冬に行方不明となった父ムハンマド(右)とジョン・スノーリ(中央)の足跡を求めて、再びK2に向かう意向を示した

増本亮&さやかの Never Ending Journey ⑧

パタゴニアへ

2018年の時と同じクリスマスの日、飛行機とバスを乗り継いでフィッツロイ・セロトーレ山群の玄関口エル・チャルテンに辿り着いた。6度目の滞在となるこの小さな町に戻ってくると郷愁に誘われる。なじみの店を訪れ、一年前と変わらない人々の暮らしに触れる。その雰囲気は私に安らぎを与えてくれ幸せな気持ちになる。毎年のように店が増え訪れる人も増え続けていたが、この町のサイズ感と時間の流れ方、人々の優しさは変わることなく、ここで暮らしてみたいと思わせる様な大好きな場所だ。世界各地からクライマーの訪れるこの町は再会の場所でもある。友人たちと異国の地で再会し、一言二言ささやかな言葉を交わし、友が変わらず登り続けていることを知るのの旅の大きな喜びの一つである。

「風」で有名なこの地だが、その凄まじさを言葉で伝えるのはなかなか難しい。南アメリカ大陸の南端に位置するこの地は、南極の北側に次々と発生し発達する低気圧の影響を常に受けている。悪天時の富士山山頂で吹くような風が、麓の町でも日常的に吹いていると言えれば少しは伝わるだろうか。風のご機嫌を伺って、まれに訪れる穏やかな日に山に登らせてもらうのがこの地のセオリーだ。今ではインターネットによって比較的精度の高い天気予報が入手できるようになり、日々それとにらめっこし、好天が来ると分かれば町中のクライマーが山へ向かっていく。昔は爆風が吹き荒れる山の中でひたすらチャンスが来るまで粘り、好天が訪れてもそれがいつまで続くか分からないまま凄まじいプレッシャーのもと登山をしていた訳で、現状のパタゴニアでの登山を知る私にとってもそれは想像を絶する世界だし、今とはまるで困難度が違う。この地で登山をすればするほど当時の登山家の偉大さを痛感する。近年パタゴニア地方では、野心的で技術的困難度の高い登山が数多く記録されているが、それは天気予報による恩恵を受けてのものと言えるだろう。とは言え山々は信じられないほど巨大な花崗岩の塊であり、猛烈な風が吹き付けていることに今も変わりはなく、その時代その時代の登山家たちの情熱をぶつける



この地のスーパークラック、アグハ・メルモスのレッドピラーに登攀する筆者

挑戦の場であることに違いはない。

妻をパートナーとしてのパタゴニアでの登山も3シーズン目となる。新ルート開拓やクラシックルートからいくつかのピークに登頂した。この間パタゴニア以外でも様々な場所で多くの経験を積んできた。そろそろ大きなピークを目指してもいい頃だ。ヨセミテで培った経験を発揮する対象、それはこの地の最高峰フィッツロイに違いない。フィッツロイに登頂することだけが目的ならば、条件に恵まれればできることは分かっている。私は今までの経験と今持てる力の全てを注ぎ込みフィッツロイの山頂に立ちたかった。私はアグハ・デスモチャードとアグハ・デ・ラ・シージャの2座を経てフィッツロイの山頂に至るウェイブ・エフェクトというルートを最大の目標に掲げた。それぞれのピークが大岩壁を有し、そのピークが急峻なコルを隔てて連なっている。その岩壁を継続登攀してフィッツロイに至るラインはパタゴニア地方全体でも屈指の美しい壮大なルートだ。その美しさと内容には初めてパタゴニアを訪れた時から惹かれていた。総標高差は約1,900mでエルキャピタン2つ分を上回る。最高グレードは12 a、全てのピッチがフリークライミングされている。エルキャピタンで腕を磨いた我々にとって最高で最適な課題と言ってよかった。

今シーズンの山のコンディションは最悪だった。古くからチャルテンで宿を経営する友人は、11月、12月はほとんど毎日のように雨が降ったと教えてくれた。チャルテンで雨ということは山ではたいてい雪になっている。フィッツロイ山頂はほぼ間違いなく雪だろう。麓から見えるフィッツロイは今まで見たことがないほど白かった。ロッククライミングルートを目指している我々にとって山の中の雪や氷は障害以外の何ものでもない。気温もとても低く、町での生活も常にダウンジャケットが必要なほどで、なかなか山に積もった雪

や岩壁のクラックに詰まった氷は溶けそうになかった。季節的には夏である。天気の良い暖かい日が訪れば、この町でも半袖一枚で過ごすことができる。そうやってはじめて山の中で快適にロッククライミングをすることができる。今シーズンはそんな日が訪れそうにはなかった。かと言って諦めの気持ちはかけらもなかった。当たり前なことだが登山するチャンスが稀なこの地では特に、悪条件も含め山が差し出す全てを受け入れる覚悟が必要だ。どんな小さなピークであってもそういう気持ちで臨んで初めて山頂に立つことができる。

1月中は本当に酷い天気が続き、ろくに登山ができなかった。一度クラシックルートからアグハ・メルモスを目指すものの、壁からは土砂降りの雨のように雪解け水が降り注ぎ途中敗退を余儀なくされた。町では午前中は10キロほどのハイキングをし、午後からボルダリングやスポーツクライミングを日課として過ごした。ハイキングには足をなまらせないことと山を観察する偵察の目的もあった。天気予報と実際の山の状況を照らし合わせ、コンディションの変化を読み取り、ルートの状態を想像することが重要だった。このことで次の好天が来た時に、それを元にどの山のどのルートなら登れそうか判断することが可能になる。パタゴニアでは忍耐強く待つことが求められる。山への気持ちを切らさずに体の状態を整え情報を収集し虎視眈々とチャンスを伺う姿勢が必要だ。

2月に入り突然と言ってもいいほどなんの前触れもなくチャンスは訪れた。4日ほどの好天を予報は告げて

いる。日程的にはウェーブ・エフェクトを狙うことができる。問題は気温と壁の状態だ。ウェーブ・エフェクトのラインは南面に当たる為太陽の恩恵をほとんど受けられない。ロッククライミングをするには気温の高めの晴天が望ましいが予想気温は低すぎる。また雪や氷も溶けにくい環境にあるので、決して壁の状態はよくないだろう。標高の低めのピークの日当りのいい面を登るのが普通に考えれば妥当なところだった。ただ過去の経験から、結構な悪天後でもトーレ谷から見上げるデスモチャーダの南面には、殆ど雪が付いていないのも目にしていた。私の心は大きく揺れ動いた。無難に小さなピークに向かうのか、可能性は薄くとも大きな挑戦をするのか。前者を選択すれば、恐らく楽しいクライミングと成功を手にすることができるだろう。後者を選択すればまともにクライミングもできず失意の下帰って来ることも容易に想像できた。それでも私は挑戦することを選択した。その為にこの地に来たのだから。次にいつこのような好天がくるか分からない。これまでの天気傾向を考えれば今年の最初で最後の大きなチャンスかもしれない。分が悪いのは百も承知だが可能性はゼロではない。自分を信じてできる限りの挑戦を試みよう、そう決意した。準備をすませ出発を明日に控えた日の夜、寝泊まりするトレーラーハウスの窓を雨が激しく打ち付けている。いったいどれだけの雪が山に降りつもっているのか。自分の選択は馬鹿げているのではないか。様々な思いが頭の中をぐるぐる回り続ける。まんじりともしないまま夜が明けた。

次号につづく(亮・記)

新刊図書紹介

『風は山から吹いている』

—Why climb mountains with me—

額賀 滯 著

高校時代にスポーツクライミング部で名を馳せた主人公・筑波岳。訳あって大学では競技を続けないと心に決めていたが、変人と噂される慶安大学登山部々長の梓川穂高につかまり、幾度か一緒に山に登り、ようやく山と向きあえたと感じられた



ある日、岳のスマホに高校時代のコーチ宝田謙介からの無言の電話がかかってきた…

なぜ、人は山に登るのか、額賀滯が描くスポーツクライミング・登山をめぐる山岳ミステリー。登場人物の氏名が鍵となる。スポーツクライミング選手の皆さんにも読んで貰いたい一書。

(株)二見書房 2021年5月20日発行
四六版・上製221頁 定価1,550円(税別)
ISBN : 978-4-576-21066-7

提携優待施設ご紹介

安達太良山の行き帰りにご利用ください。

Mt.inn (マウントイン) 宿泊費10%引き

<https://mt-inn.jp>

〒964-0074 福島県二本松市岳温泉 1-7 TEL : 0243-24-5234

令和3(2021)年度定時総会報告

令和3(2021)年度定時総会は、コロナ禍による緊急事態宣言発出下という事もあり、6月20日(日)にオンライン会議による開催となった。正会員65名(本人出席59名、委任6名、理事23名、監事2名)が出席。同席者は、各専門委員会の委員長14名、神崎忠男顧問、萩原崇宏顧問弁護士、次期役員候補者10名。

定款第16条に定めるところにより、八木原会長が議長となり、定款第18条第1項に定める定足数の充足を確認して、定時総会の開会を宣言した。次いで、定款第20条第2項に基づき、議事録署名人として八木原囃明議長、水島彰治常務理事、木村康男正会員を選任して議案の審議に入った。尚、オンライン会議のホストは小野寺事務局長が務めた。

議事に先立ち、八木原会長から冒頭、「今年度は一堂に会して開催したかったが、緊急事態宣言発出下ということで、やむなくオンラインでの総会となった。このようなコロナ禍ですが、東京オリンピックは開催されます。昨日まで盛岡で第4回コンバインドジャパンカップを観てきました。日本代表選手の前田選手は欠場しましたが、他の3選手の仕上がりは上々のように見えました。3期6年の結びの総会となります。在任中の反省などは、のちほど退任の挨拶で申し上げます。」と挨拶。

1. 議 事

(1)議案第1号 令和2年度事業報告について

議長より議案第1号、第2号は関連議案のため、続けて説明をした後、質疑応答としたい、と述べられ、小野寺事務局長が資料により令和2年度事業報告の説明を行った。

(2)議案第2号 令和2年度収支決算報告及び監事監査報告について

相良理事が資料により令和2年度収支決算の説明を行い、その後、古屋監事から監事監査報告及び監査所見が述べられた。

その後、尾形専務理事から大阪府岳連からの質問事項について回答した。

①常務理事会の位置づけは、定款第21条第3項に定める業務執行理事の会議で、名称は従前を踏襲している。

②JOC選手強化助成金については、当初内示交付額は、7,500万円であったが、概算払いで39,641千円

入金、最終交付額が13,129千円となり、26,512千円を返金した。

③I F S C世界選手権八王子大会の会計処理については、I F S C世界選手権の収支決算では、当初予算比で約6,400万円(補正後は1,300万円)の赤字となったが、公益目的事業会計では、4,634万円の赤字。法人会計1,605万円の黒字で、令和元年度経常増減額は、3,029万円の赤字となった。これらの赤字は、長期借入金で対応した。令和2年度借入金残高が16,664千円で、これを先程の説明のように完済した。

議案第1号、議案第2号とも、議長を除いた賛成64、反対0で承認された。

(3)議案第3号 次期役員の選任について

亀山役員選考委員会委員長から選考経過の報告の後、理事会で承認された理事25名、監事2名の承認が諮られた。(役員名簿は、9頁参照)

議案第3号は、25名の理事候補者及び2名の監事候補者が何れも賛成64(正会員が候補者は、63)、反対0で承認された。

(4)議案第4号 定款の一部変更について

処分規程第5条第2項の処分内容には、「永久追放」の処分が規定されているが、定款にはその定めがないため、定款と処分規程の整合性を図るために、定款第9条第1項に「なお、事案の重大性によっては、以後の入会を認めないことができる。」を加筆する定款変更が諮られた。

質疑応答の後、採決に入り、議案第4号は、賛成62、反対1、棄権1で承認された。

2. 報 告

(1)報告第1号 令和3年度事業計画及び収支予算について

令和3年3月の理事会で承認された令和3年度事業計画及び収支予算について報告があった。

収支予算ではwithコロナでの事業計画に伴い1,930万円の赤字予算となっている。

(2)報告第2号 ガバナンスコードと中期経営計画について

ガバナンスコードの自己説明の公開(令和3年1月)と中期経営計画2021年～2025年の策定について報告があった。本協会の第1回適合性検査は、令和4年度。

(3)報告第3号 特定費用準備資金等取扱規程の制定と

特定費用準備資金の積立について

議案第2号の収支決算報告のとおり、令和2年度は「財政基盤確保資金」、「国際大会開催準備資金」の特定資産を新規保有した。その経緯とその取扱いに関わる規程の制定について、報告があった。

(4)報告第4号 JMSCAに於ける財務の健全性確保策について

ガバナンスコードの原則1(3)では、「財務の健全性確保に関する計画を策定して公表すること。」が求められている。過去8年間の財務分析と社会環境や政治・経済の外部要因が及ぼす外部分析から今後の財務の健全性確保策を策定した報告があった。

(5)報告第5号 令和2年度日山協山岳共済会事業報告と収支決算報告、監事監査報告について

尾形専務理事から資料に基づいて報告があり、その後、古屋監事から監査報告が述べられた。

コロナ禍により加入者が46,446人(前年比6,570人減)と減少したため、会費収入も5,664千円減となった。そのため補正予算を組んでJMSCAへの業務委託料も34,000千円に減額した、と報告があった。

監事からは、継続的な加入者減と加入者の年齢構成が高齢化になっている問題が指摘された。

(6)報告第6号 令和3年度日山協山岳共済会事業計画と収支予算書について

令和3年度もコロナ禍の現状を鑑み、前年度並みの収支予算とした。6月15日現在の加入者が、40,478人という厳しい数字が報告された。

(7)報告第7号 創立60周年記念事業について

コロナ禍により、何もやれない事が記念事業になってしまった。それでも60周年記念出版事業は、『UIAA』夏季アルパインハンドブック』3,000部を6月に刊行。『創立60周年記念誌』500部を3月に刊行。60周年記念特別功労表彰として99名の方を表彰した、などが報告された。

(8)報告第8号 新型コロナウイルスと各種大会について

8月の第33回リードジャパンカップから3月の第34回リードジャパンカップまで、7大会を開催するにあたってのコロナ感染予防対策が報告された。

(9)報告第9号 第32回オリンピック競技大会代表選手選考(CAS仲裁判断を受けて)について

合田常務理事からCAS仲裁の裁定結果と選手、JOC、IFSC等の対応について報告があった。

(10)報告第10号 第59回全日本登山大会・高知大会(予報)について

麻田正会員(高知)から大会概要の説明があった。

3. その他

公認スポーツ指導員の呼称の使い分け、ポスト・コロナの登山形態、国際大会の招致見通し、全国「山の日」記念大会の招致活動、山岳スキー競技の冬季オリンピック種目化等の質疑応答があり、13時45分に閉会した。

(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会 役員名簿

(2021年6月20日現在)

【理事】

No.	役職	氏名	年齢	外部/女性・理事
1	会長	丸 誠一郎	66	外部理事
2	副会長	亀山健太郎	79	
3	副会長	小日向 徹	54	
4	副会長	高野 孝子	58	外部・女性理事(新任)
5	専務理事	小野寺 齊	70	
6	常務理事	羽鎌田直人	29	(新任)
7	常務理事	相良 忠麿	79	
8	常務理事	古賀 英年	65	
9	常務理事	蛭田 伸一	65	
10	常務理事	村岡 正己	63	
11	常務理事	濱田 豪	51	外部理事(新任)
12	理事	水島 彰治	68	
13	理事	町田 幸男	61	
14	理事	水村 信二	57	
15	理事	山口 純子	50	外部・女性理事
16	理事	六角 智之	58	
17	理事	前田 善彦	54	
18	理事	山本 讓	65	
19	理事	野村 善弥	59	(新任)
20	理事	栗田季慎子	50	女性理事(新任)
21	理事	笹生 博夫	71	(新任)
22	理事	小竹 靖高	63	(新任)
23	理事	青山 千彰	71	(新任)
24	理事	安井 博志	46	(新任)
25	理事	原 秀樹	70	(新任)

【監事】

1	監事(税理士)	中島 正喜	75	
2	監事(山梨)	古屋 壽隆	70	

令和2(2020)年度事業報告

令和2年4月1日~令和3年3月31日

I 事業総括

前年度に続いて、新型コロナウイルスの爆発的な世界的感染拡大により東京2020オリンピックを始め、多くの事業/競技大会、研修会、講習会などが中止・延期・自粛を強いられた。

特に上期は、かろうじて前年度事業であった第33回リードジャパンカップ(盛岡市)と安全登山指導者研修会東部地区(福井)の2事業のみ開催できた。

下期においては、やはりパンデミックが猛威を振るう中、感染予防対策等に留意して無観客開催、PCR検査の徹底などを行い、スポーツクライミング大会においては、規模を縮小しながら6大会が開催された。登山においては、開催中止、オンライン開催への変更などが余儀なくされた。実施できたのは、指導委員会の登攀技術研修会くらいであった。

コロナ禍により、政府から在宅勤務の要請が出て、4月から5月にかけて事務局体制もそれになった。年が変わって1月にも緊急事態宣言が発出され、在宅勤務を行った。

同様にスポーツ庁、J S P O、J O C等からも注意情報が再三にわたり通知され、加盟団体にも配信した。J O C関連では東京2020オリンピック開催に向けた情報共有会議が複数回行われた。

登山自粛の呼びかけ、登山再開に向けたガイドラインを山岳4団体(J M S C A、労山、日本山岳会、日本山岳ガイド協会)で行った。この内容は英訳してU I A Aのホームページにも他の国の連盟と共に掲載してもらった。

ガバナンスコードに関しては4年ごとの適合性審査の前に1年ごとの自己説明・公表が義務付けられておりHPに掲載した。

我が国の登山及びスポーツクライミングのより一層の改革・発展を期し、「J M S C A中期経営計画2021－2025」を策定して公開した。策定にあたっては、本協会を取り巻くあらゆるステークホルダーに本協会と登山・スポーツクライミングについての思いと考えをヒアリングした。そしてそれぞれの立場・視点からの意見を集約して、本協会の不変の理念・使命・行動指針を明文化し、それぞれの分野の数値目標を立てた。

また、「スポーツ団体ガバナンスコード」原則1(3)では、「財務の健全性確保に関する計画を策定して公表すること」が求められている。本協会の過去8年間の財務実績を分析し、中期的な視点から測定可能な目標を記載した「J M S C Aにおける財務の健全性確保策について」を策定して公開した。

政府支援のイベント再開支援事業(スポーツ庁)や持続化給付金(経産省)を申請して支給された。家賃支援金(経産省)も同様に申請し、3ヶ月分受給した。

組織運営に関しては理事会、総会及び各委員会の会議はZoomを利用してオンラインで行われ、その方式が定着した。総会・全国理事長会議など全国的な会議もオンラインで開催された。各委員会においてはオンラインを有効活用し、委員を全国に配置しての会議が行われるようになった。

I F S C (国際スポーツクライミング連盟)、I S M F (国際山岳スキー連盟)、U I A A (国際山岳連盟)などの国際団体も選挙、総会等国際会議は皆オンラインで行われた。U A A A (アジア山岳連盟)の理事会(労山主管)は中止になった。I F S C－A C C (アジアカウンスル)も同様にオンライン開催で、新規役員改選が行われ、本協会からも副会長とルートセッター委員長に当選した。U I A Aにおいては10月の改選において理事に立候補したが次点に終わった。

I F役員獲得のためのロビー活動については、コロナ禍により、委託事業として当初スポーツ庁に申請した回数は消化できずに終わった。

C A S審問については8月26日にローザンヌとオンライン形式で行われ、結果は12月11日に裁定が下った。思う通りの結果にはならなかったが、その後I F S C、J O Cとも協議して3月末に報道発表を行った。

次世代アスリート発掘のアスリートパスウェイ事業はJ S Cの委託事業であるが、当初の予定通りに行われた。成果は着実に上がっている。

スポーツクライミングの国際大会派遣については一度も派遣できずに終わった。

2024年のパリオリンピックにおいて、スポーツクライミングが追加種目としてI O Cから正式に承認された。種目は、コンバインド(ボルダリング、リード)とスピードの2種目となった。

スポーツクライミング・ジャパンツアーは9月から始まり、ボルダリングは6戦、リード・スピードは各々3戦ずつ実施された。

A選手登録の条件であるA D・倫理研修は7月からオンライン形式で始まり、21回開催した。しかし、希望者が多く、殆どはHPに発表後すぐに満杯になる状態が続いた。今後はスポーツクライミングの選手だけでなく、山岳スキーの選手も対象になる。

前年度できなかったU I A A認定資格試験及び夏山リーダー制度に関しては国内でどうするかについて話し合いの場が設けられ、同時に複数の岳連(協会)で研修会が開催されている。

創立60周年記念出版の「U I A A夏季アルパインハンドブック」は、6月に刊行した。出版は労山と共同で行い、印刷部数はJ M S C Aが1,000部、労山が2,000部と合計3,000部。J M S C A販売部数は今のところ約800部出ており、好評を博している。3月には創立60周年記念誌が出版され、これも好評である。

記念式典・祝賀会は、延期になったが、令和3(2021)年度に開催することで考えている。

「ストップ・ザ1000!!」恒常的な山岳遭難件数、死

者行方不明者数の減少のための動画配信については十分に行えず、ライセンス(音楽著作権)を延長して再度トライしている。しかし、コロナ禍により、登山を行う人も減っており、期待したほどの効果があがっておらず、引き続き開発活動に努めている。

各岳連に委託の少年少女登山教室事業において申請された件数は3月末現在11件にとどまっている。これは明らかにコロナ禍の影響である。

山小屋支援エイド基金にも団体として賛同・協力した。アスリート委員会はコロナ感染症対策に従事している方々のために「Climb for Tomorrow 2020プロジェクト」を立ち上げ、10月30日から12月29日の間に119名から2,054,000円の支援金が集まり、リターン制作費・送料・手数料を除いた額をWHOに寄付した。

ホームページに関しては相変わらず評判が良くない。それなりの費用をかけていないせいもあるが協会の顔であり、見過ごしにはできない。次年度改善の方向に進んでおり、広報委員会を中心に力を入れる。

アイスクライミング競技に関しては、選手登録の件などを協議したが、最終的には例年通りの対応になった。ただ、アイスクライミング検討委員会(仮称)が立ち上がり将来に向けての準備が整った。UIAAにおいては、オリンピックは無理でもユースオリンピックに、とIOCに攻勢をかけているが、時間がかかりそうである。

ISMFも競技会開催がなかなかできず財政難に陥っており、とうとう会費の値上げに踏み切った。

埼玉、千葉、京都、静岡、岡山において岳連(協会)が一般社団法人化された。名称も「山岳・スポーツクライミング連盟(協会)」と改称する県が増えてきた。現在19県となった。

事務局職員の労働に関して36協定届を新宿労働基準監督署に提出した。

JSCに申請している令和2年度助成金のうち、スポーツ振興くじ助成金は比較的早めに交付決定通知が届いたがスポーツ振興基金は3月になって届いた。JOCの場合は当初の予定通り消化できず一部返却した。

登山普及情報交換会はオンラインで行った。全日本登山大会はコロナ禍で中止になったが、その在り方が問われており、検討している。レスキュー講習会は2回ともコロナ禍で中止になった。

東京2020オリンピック実施を前提に令和3(2021)年度事業計画と予算委員会を中心にして予算編成を2月末完成、3月初めの理事会に提出し承認を得た。

JSCに対しての令和3年度補助金申請は、1月末(昨年度は1月15日)に申請し、交付決定通知は比較的早めに届いた(4月中旬)。

都道府県山岳(・SC)連盟(協会)での競技会・研修会・講習会参加者向け国内旅行傷害保険包括契約について準備を進めた。

東京2020オリンピックは、スポーツクライミングとしては初めてのオリンピックである。成功を祈念すると共に協会も前進していきたい。

II. 組織・会員状況

「スポーツ団体のガバナンスコード」に則り、公益法人としてガバナンスの強化及びコンプライアンスの徹底を図るために、諸規程の整備・強化を図り、順次HPにアップして公開した。

会員の状況は以下の通りである。

- ①正会員 64名(加盟団体48名、学識経験者16名)
- ②賛助会員(団体) 9社(退会1社)
- ③賛助会員(個人) 107名(新規加入4名、退会・逝去8名)

令和2年度決算概要

【経常増減の部】

経常収益		経常費用	
受取会費	12,146,000	登山部	16,119,441
事業収益	257,118,395	競技大会	121,594,923
受取補助金等	28,238,261	選手強化	53,358,981
受取委託金	21,032,267	SC普及	16,100,296
受取寄付金	5,610,000	団体	4,959,301
雑収入他	3,982,468	マーケティング	9,515,917
経常収益計	328,127,391	技術	5,722,073
		SC共通他	8,051,902
		公益共通	22,501,077
		法人	16,484,020
		経常費用計	274,407,931

【正味財産増減の部】

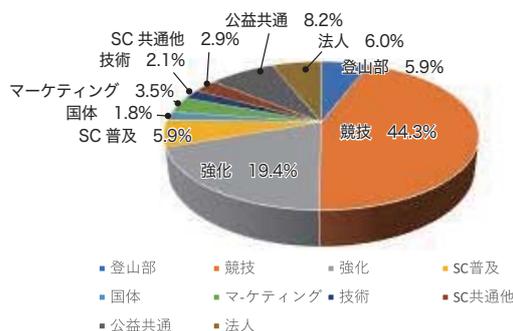
一般正味財産	99,096,336
正味財産期末残高	130,675,342

令和2年度収支決算

【経常収益割合】



【経常費用割合】



令和2年度収支決算書

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

【貸借対照表】

(単位：円)

科目	当年度 (R3/3/31)	前年度 (R2/3/31)	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預貯金・郵便振替	70,791,452	55,547,831	15,243,621
未収金	12,725,661	64,647,275	△51,921,614
前払費用	12,964,050	7,892,167	5,071,883
仮払金	915,199	0	915,199
流動資産合計	97,396,362	128,087,273	△30,690,911
2 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産定期預金	30,000,000	30,000,000	0
基本財産合計	30,000,000	30,000,000	0
(2) 特定資産			
国民スポーツ登山振興基金	5,494,487	15,495,367	△10,000,880
退職給付引当資産	3,594,098	3,594,098	0
創立60周年記念事業積立資産	1,579,006	2,048,006	△469,000
財政基礎確保資金	30,000,000	0	30,000,000
国際大会開催資金	30,000,000	0	30,000,000
特定資産合計	70,667,591	21,137,471	49,530,120
基本財産・特定資産合計	100,667,591	51,137,471	49,530,120
(3) その他固定資産			
什器備品	1	1	0
商標権	1,550,078	652,634	897,444
ソフトウェア	843,984	1,461,960	△617,976
保証金	1,350,000	1,350,000	0
その他固定資産合計	3,744,063	3,464,595	279,468
固定資産合計	104,411,654	54,602,066	49,809,588
資産合計	201,808,016	182,689,339	19,118,677
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	479,500	0	479,500
未払費用	27,379,071	32,018,233	△4,639,162
前受金	862,000	4,760,000	△3,898,000
預り金	855,084	1,087,580	△232,496
仮受金	26,550,719	18,700	26,532,019
短期借入金	0	40,000,000	△40,000,000
1年以内返済予定長期借入金	0	6,672,000	△6,672,000
未払消費税等	3,949,300	2,339,200	1,610,100
賞与引当金	2,663,000	1,802,000	861,000
流動負債合計	62,738,674	88,697,713	△25,959,039
2 固定負債			
長期借入金	0	9,992,000	△9,992,000
退職給付引当金	8,394,000	6,579,000	1,815,000
固定負債合計	8,394,000	16,571,000	△8,177,000
負債合計	71,132,674	105,268,713	△34,136,039
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
受取寄附金	31,579,006	32,048,006	△469,000
指定正味財産合計	31,579,006	32,048,006	△469,000
(うち基本財産への充当額)	(30,000,000)	(30,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(1,579,006)	(2,048,006)	△(469,000)
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	99,096,336	45,372,620	53,723,716
(うち特定資産への充当額)	(5,494,487)	(15,495,367)	△(10,000,880)
正味財産合計	130,675,342	77,420,626	53,254,716
負債及び正味財産合計	201,808,016	182,689,339	19,118,677

【正味財産増減計算書】

(単位：円)

科目	当年度 (R2/4-R3/3)	前年度 (H31/4-R2/3)	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	3,063	3,000	63
基本財産受取利息	3,063	3,000	63
特定資産運用益	1,193	1,907	△714
特定資産受取利息	1,193	1,907	△714
受取会費	12,146,000	12,402,000	△256,000
正会員受取会費	2,550,000	2,600,000	△50,000
加盟分担金受取会費	7,798,000	8,106,000	△308,000
賛助会員受取会費(個人・団体)	1,798,000	1,696,000	102,000
事業収益	257,118,395	359,174,208	△102,055,813
共済会委託事業収入	34,000,000	44,500,000	△10,500,000
登録料収入	8,965,000	13,451,300	△4,486,300
競技選手登録料収入	7,535,000	12,193,300	△4,658,300
諸登録料収入	1,430,000	1,258,000	172,000
参加者負担金収入	1,616,800	7,374,380	△5,757,580
講習会参加料収入	913,800	3,378,280	△2,464,480
諸参加料収入	703,000	3,996,100	△3,293,100
協賛金収入	179,885,020	216,142,920	△36,257,900
広告料収入	4,191,839	6,316,847	△2,125,008
競技会収入	18,499,253	66,818,536	△48,319,283
選手参加料収入	17,829,900	17,011,439	818,461
入場料収入	0	39,833,597	△39,833,597
競技会諸収入	669,353	9,973,500	△9,304,147
その他事業収益	9,960,483	4,570,225	5,390,258
受取委託金	21,032,267	15,307,487	5,724,780
スポーツ庁委託金	1,047,890	3,399,220	△2,351,330
日本スポーツ振興センター委託金	19,984,377	11,908,267	8,076,110

受取補助金等	28,238,261	178,923,949	△150,685,688
日本オリンピック委員会助成金	13,470,011	91,058,081	△77,588,070
国民体育大会補助金	0	7,496,368	△7,496,368
日本スポーツ協会助成金	1,125,250	1,140,500	△15,250
スポーツ振興くじ助成金	763,000	69,029,000	△68,266,000
スポーツ振興基金助成金	10,880,000	9,000,000	1,880,000
日本スポーツ振興センター助成金	2,000,000	1,200,000	800,000
受取負担金	0	43,321,000	△43,321,000
受取負担金等	0	43,321,000	△43,321,000
受取寄附金等	5,610,000	3,600,000	2,010,000
受取寄附金	5,610,000	3,600,000	2,010,000
雑収益	3,982,468	9,757	3,972,711
受取利息	2,468	2,437	31
雑収入	3,980,000	7,320	3,972,680
経常収益計	328,131,647	612,743,308	△284,611,661
(2) 経常費用			
事業費	257,923,911	608,594,823	△350,670,912
給料手当	22,708,669	25,411,832	△2,703,163
臨時雇賃金	6,275,000	14,216,000	△7,941,000
通勤費	1,458,125	771,839	686,286
退職給付費用	1,633,500	1,235,700	397,800
賞与引当金繰入	2,396,700	1,621,800	774,900
福利厚生費	2,516,777	3,215,911	△699,134
会議費	2,826,990	5,249,336	△2,422,346
旅費交通費	36,044,658	137,695,744	△101,651,086
通信運搬費	4,380,266	5,676,715	△1,296,449
減価償却費	734,756	727,533	7,223
消耗品費	8,330,155	4,801,297	3,528,858
印刷製本費	20,632,358	24,884,848	△4,252,490
広告宣伝費	944,900	876,975	67,925
光熱水料費	179,218	148,079	31,139
賃借・リース料	14,909,439	19,476,369	△4,566,930
保険料	1,530,636	3,973,334	△2,442,698
諸謝金	22,322,566	24,473,973	△2,151,407
大会施設費用	76,966,937	248,463,790	△171,496,853
支払負担金	1,975,759	34,861,304	△32,885,545
支払助成金及び事業交付金	200,000	2,275,000	△2,075,000
委託費	8,820,921	12,839,120	△4,018,199
租税公課	6,998,310	7,166,873	△168,563
参加登録料	133,849	2,565,308	△2,431,459
現地サポート費用	0	0	0
大会記念品費	387,800	926,441	△538,641
大会賞金	4,800,000	12,753,338	△7,953,338
報奨・奨励金	300,000	5,900,000	△5,600,000
↓T関連費	7,167,368	6,072,122	1,095,246
雑費	348,254	314,242	34,012
管理費	16,484,020	34,443,452	△17,959,432
役員報酬	60,000	90,000	△30,000
給料手当	2,523,185	2,823,538	△300,353
通勤費	162,014	85,763	76,251
退職給付費用	181,500	137,300	44,200
賞与引当金繰入	266,300	180,200	86,100
福利厚生費	279,641	357,323	△77,682
会議費	600,822	2,069,925	△1,469,103
旅費交通費	460,221	8,478,615	△8,018,394
通信運搬費	89,728	99,190	△9,462
減価償却費	12,976	5,933	7,043
消耗什器備品費	474,760	2,049,814	△1,575,054
消耗品費	37,626	71,031	△33,405
印刷製本費	678,881	3,237,278	△2,558,397
光熱水料費	19,913	16,453	3,460
賃借・リース料	677,015	788,462	△111,447
支払会費	3,196,974	4,045,333	△848,359
保険料	83,752	93,803	△10,051
租税公課	777,590	526,317	251,273
支払負担金及び還付金	2,215,500	3,901,800	△1,686,300
交際費	268,500	277,240	△8,740
支払利息	268,899	357,239	△88,340
支払報酬	842,000	989,490	△147,490
手数料	2,034,638	2,595,614	△560,976
↓T関連	153,485	1,053,830	△900,345
雑費	118,100	111,961	6,139
経常費用計	274,407,931	643,038,275	△368,630,344
当期経常増減額	53,723,716	△30,294,967	84,018,683
2 経常外増減の部			
当期一般正味財産増減額	53,723,716	△30,294,967	84,018,683
一般正味財産期首残高	45,372,620	75,667,587	△30,294,967
一般正味財産期末残高	99,096,336	45,372,620	53,723,716
II 指定正味財産増減の部			
受取寄附金等	1,131,000	588,000	543,000
一般正味財産へ振替額	1,600,000	0	1,600,000
当期指定正味財産増減額	△469,000	588,000	△1,057,000
指定正味財産期首残高	32,048,006	31,460,006	588,000
指定正味財産期末残高	31,579,006	32,048,006	△469,000
III 正味財産期末残高	130,675,342	77,420,626	53,254,716

※指定正味財産増減の部の受取寄附金は創立60周年記念事業募金

〈令和2年度協賛各社及び助成金法人等一覧〉

KDDI(株)、三井不動産(株)、住友商事(株)、オリエンタルパ
イオ(株)、日本航空(株)、久光製薬(株)、牛乳石鹼共進社(株)、キョ
ウリン製薬ホールディングス(株)、八海醸造(株)、日新火災海
上保険(株)、ニチハ(株)、(株)ゴールドウイン、東商アソシエ
ト(株)、三井住友海上火災保険(株)、(株)ニココン、(株)牛走運送、
スポーツ庁、(公財)日本オリンピック委員会、(公財)日本
スポーツ協会、(独)日本スポーツ振興センター(スポーツ
振興基金助成金、スポーツ振興くじ助成金)、(一財)上月
財団、岩手県、盛岡市、葛飾区、南砺市、西条市、世田谷区、
亀岡市、印西市 (敬称略、順不同)

日時：令和3年6月3日(木) 14:00～17:00

場所 Web会議

出席者 八木原会長、亀山、平山、丸各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、合田各常務理事、相良、蛭田、町田、村岡、村上、水村、前田、六角(途中退席)、唐木、古賀、山本、古林、小日向、安藤各理事
中島、古屋各監事

欠席者 山口理事

1. 開会

理事会に先立ち、八木原会長から「現役員での最後の理事会になります。定時総会もリモートになるようです。ご意見もいろいろあるようですが、宜しくお願ひします」と挨拶。

会長挨拶の後、事務局長から理事22名、監事2名の出席が確認され、事務局長がオンライン会議のホストを務めて議事に入った。

2. 議題

- 議案第1号 議事録の承認について
令和3(2021)年度第2回理事会議事録の承認について(事前送付済)
異議なく承認された。
- 議案第2号 令和2年度事業報告(案)について
事前に配布した資料をかなり加筆修正したため、変更した部分を中心に説明があった。
出席者22名、議長を除いて21名のうち、賛成21名で承認された。
- 議案第3号 令和2年度決算報告(案)について
資料に基づいて個々の科目の収支額の説明があった。令和2年度の収支決算は、公益目的会計で40,112千円、法人会計で13,611千円、合計53,723千円の黒字になった。公益目的会計の収支相償の原則が崩れるために特定資産準備資金として国際大会開催資金3000万、財政基盤確保資金3000万円の特定資産を積み立てた。

長期借入金と短期借入金については、6月に短期借入金を完済し、10月に長期借入金を完済した。

議案第3号は、賛成21名で承認された。

<監事・業務会計監査報告>

古屋監事より監査報告があった。特定の問題点は見つからなかった。監査所見においては、収支決算は黒字になったが、これは、コロナ禍で事業が実施できなかったにも関わらず、協賛金の減額がなかった事に依るものである。2口座の特定資産を積立てたが、あくまでもスポーツクライミングの公益事業に紐づいている。取り扱いには十分注意願ひたい。世界選手権2019の赤字により、財政再建諮問委員会が、改めて規律を作った。今後も厳格な財務管理を行ってほしい。

スポーツクライミング部門は事業が盛んだが、引き続き予算管理をしっかりと行ってほしい。登山部門は「ストップザ1000」、「夏山リーダー」で効果的な活動をお願いしたい。ガバナンスコード、中長期計画を肅々と進めていくことと、見直しも必要と思う。方針を見定めながら、登山界、スポーツクライミング界、社会に対して貢献をお願いしたい。会計上は問題なかった。CASの裁定も今後活かして欲しい。IFSC、JOCとの連携も見直しを進めながらコーチ・監督とも協力してほしい。

- 議案第4号 「主催・共催・主管・後援に関する規程」の制定について

資料に基づいて提案があった。手続き、運営について質疑応答があった。
議案台4号は、賛成21名で承認された。

- 議案第5号 正会員の承認について
以下の正会員の入会が諮られ、何れも異議なく承認された。

(一社)静岡県山岳・スポーツクライミング連盟：木ノ内高嘉(退任・滝田博之)、
(一社)岡山県山岳・スポーツクライミング連盟：石原敬士(退任・山崎裕昌)、
山形県山岳連盟：大滝潤二(退任・伊藤吉樹)

- 議案第6号 令和3年度定時総会の開催方法について

定時総会の開催方法について、コロナ禍の現状と緊急事態宣言発出下を鑑み、オ

ンラインで行いたい、開始は9時30分からにしたい、と諮られた。

議案第6号は、賛成21名で承認された。

- 議案第7号 新理事候補者について
先月の理事会で25名の理事候補者を承認して頂いたが、その後、1名辞退されたので、その補充として新たに1名の推薦が諮られた。

辞退理事候補者 加藤富之
推薦理事候補者 羽鎌田直人
質疑応答の後、採決が諮られ、2名棄権、賛成19名で承認された。

- 議案第8号 道迷い遭難対策看板設置の看板名称「JMSCA遭難対策委員会」の使用承認について

理事会としては遭難委員会に一任して看板等の設置をすることを承認すればよい。特に反対意見はなく、全員一致で、承認された。

3. 報告

- 報告第1号 令和3年度SC医科学常任委員について

常務理事会で承認された常任委員の報告があった。

- 報告第2号 令和2年度山岳共済会事業報告及び収支決算報告について

コロナ禍の影響もあり、加入者数が46,446人、前年比6,570人減であった。大幅な加入者減が見込まれたため、初めて補正予算を組んで対応した。会費収入は44,617,000円で前年比5,664千円減であった。

<監事・業務会計監査報告>

古屋監事から資料に基づいて報告があった。会員数が減少し、JMSCAへの委託事業が前年比1,000万近く減額となった。これは登山部門資金の減少を意味する。会員の年齢構成のグラフでは高校生と70才以上が山を作っている。今後の10年間を考えると激減状態が想定される。各岳連の共済会担当者が営業を行い、加入促進を図って貰いたい。個々の会員が勧誘を行うなど、各岳連に協力を呼びかけて貰いたい。

- 報告第3号 業務執行理事の職務執行報告
各々の業務執行理事が、資料に基づいて報告を行った。

- 報告第4号 SC競技規則改定について
常務理事会で承認されたSC競技規則の改定について報告があった。IFSCのルール変更に合わせて改定。

- 報告第5号 令和3年度アスリートパスウェイについて
JSCに公募して前年に続き、対象に決定した。

- 報告第6号 第9回LYC南砺大会の報告について
資料に基づいて報告があった。

- 報告第7号 (一社)広島県山岳・スポーツクライミング連盟後援名義使用申請について
承認した旨の報告があった。

- 報告第8号 日本代表選手団、東京オリンピック、チームジャパン監督コーチ等推薦について
資料に基づき報告があった。

- 報告第9号 ワールドカップ出場選手の

寄贈図書

会報	(公財)健康・体づくり事業財団	「健康づくり」No.518 202106
	(公社)日本ネパール協会	「会報」2021年春号 No.256
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第648号
	長野県山岳協会	「やまなみ」No.241
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」6月号 No.557
	(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」2021年6月号 No.38
	東京野歩路会	「山嶺」Vol.98 No.1096
	(公社)日本山岳会	「山」2021年6月号 No.913
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」6月号 第483号
	中華民国山岳協會	「中華山岳」<雙月間> 283
寄贈本 広報誌	おいらく山岳会	「山行手帖」No.739
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第441号
	やまびこ山想会	「やまびこ」第194号
	福岡山の會	「せふり」No.405
	二見書房	「風は山から吹いている」額賀澤
	(公財)日本スポーツ協会	「JSPOスポーツニュース」「JSPOフェアプレイニュース」Vol.130
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」7月号 No.1038
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」7月号 No.889
	(株)山と溪谷社	「ROCK&SNOW」Jun.2021 No.092
	(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2327号、第2328号、第2329号

承認について、資料に基づき報告があった。一部追加があり、常務理事により、承認された。

- (10)報告第10号 国体委員会通知
国体委員会においては、各都道府県予選やブロック大会に対してコロナ対策の報告義務を通知しているが、その記載がないのが見られる。その場合、欠格になる恐れがあり、そのようなにならないように指導を行っている。
- (11)報告第10号 役員派遣について
(6月6日(日)~7月11日(日))
- (1)第一回国体基準会議 6月12日(土)~13日(日) 於: 菰野町体育センター周辺特設会場 八木原会長、村岡理事
- (2)コンバインドジャパンカップ 6月18日(金)~19日(土) 於: 岩手県営運動公園スポーツクライミング競技場 八木原会長、平山・丸副会長、村岡理事
- (3)令和3年J S P O定時評議員会 6月18日(金) 於: オンライン 尾形専務理事
- (4)令和3年度J M S C A定時総会 6月20日(日) 於: オンライン 八木原会長他
- (5)令和3年度スポーツ安全協会評議員会 6月24日(木) 於: オンライン 尾形評議員
- (6)令和3年J O C定時評議員会 6月25日(金) 於: J S O Sビル14F 八木原評議員
- (7)全国遭難対策委員長会議 6月26日(土)9時~12時30分 於: オンライン 町田理事

表紙のこぼれ

カラコルムのバルトロ街道に入って最初に目を引く巨峰は、マッシュャーブルム(北東峰7,821m、南西峰7,806m)だ。1857年にG. T. モントゴメリー大佐らが測量して「K1」と命名したこともうなずける。

1960年、J. I. ベル隊長の率いるアメリカ・パキスタン合同隊が、1957年のイギリス・マンチェスター隊のルートを取り、南東フェースから7月6日に隊長とW. アンソールドが初登頂。

山名の謂れは、サンスクリット語で「最後の審判日の峰」と云われる。また、「貴婦人」または「女王」の意だとも云われる。私見としては、「貴婦人」が相応しいと思う。

(写真撮影者 尾形好雄)

編集後記

梅雨末期の集中豪雨、昨年の熊本に続き静岡の熱海で土石流が発生し甚大な被害が出ている。被災された方々には謹んでお悔やみ、お見舞い申し上げます。

本誌『登山月報』は、次号よりスタッフが交代します。今まで原稿を寄せていただいた方々には、感謝申し上げますとともに引き続きのご協力を。新メンバーにより新しい風が吹くことを期待しています。ありがとうございました。

(広報担当 水島彰治)



トレランJAPAN
一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第628号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)

発行日 令和3年7月15日
 発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
 Japan Sport Olympic Square 807
 公益社団法人
 日本山岳・スポーツクライミング協会

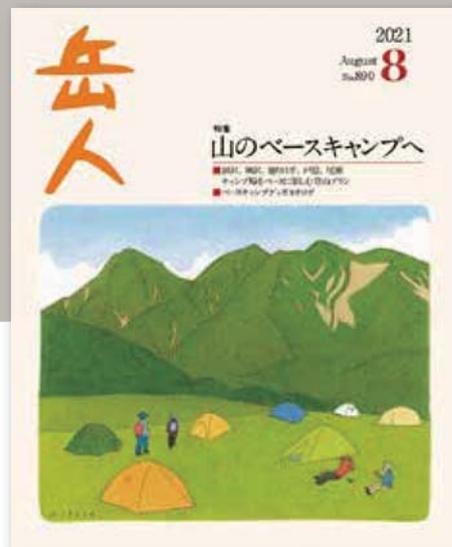
電話 03-5843-1631
 F A X 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」



8月号
発売中

【特集】山のベースキャンプへ

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格968円(税込)

年間購読がおすすりめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格 12冊

年間購読なら 12冊

1冊分
おトク!

~~10,560円~~ (税込)
11,616円(税込)

→ 9,680円 (税込)
10,648円(税込)



A4サイズが入る!
**岳人
トートバッグ**
丈夫な帆布製で
マイバッグとしても
重宝します。

▶サイズ:幅36×高さ37×マチ11cm

年間購読特典

全国1,900カ所以上で
ご優待!

岳人カード



全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>

<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals) とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害 遭難搜索費用 救援者費用
 傷害入院 傷害通院 傷害手術 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



WEBからお申込みいただけます